

確かに目と技術で 内外の風光を活写

写真展

第40回医家写真展は10月13日～17日まで、新会場のJCI Iフオトサロンクラブで開かれ

22人44点が飾られました。作品評は新井逢彦先生です。

22人から44点 初の審査

今回は審査を省き、出品者が各2点ずつ提出、フジフィルムの調布ギヤラリー

に委嘱して制作、都心の会場へまとめて運びました。閉会後、事務局のある小平市のシラヤアートスベースに引き上げ、春の医学会総会協賛出品ものを保管、それ以外はお返ししました。

寸評 新井 隆彦

ここ数年の写真展では会場探しが最大の問題でした。今回は竹腰先生が頑張って都内を駆け巡り、期待以上の会場を探し当てました。建物全てが写真関連の会社、ギャラリーなどが入っていて地下鉄

懇親会の記念撮影（石井先生は所用で帰られたあと……気付くのが遅れました）



す。既に来期の予約も済んでいるとのことで、ご努力に感謝致します。
さて例の批評につきまして、私なりに書いてみました。作品の撮影場所、時間なども書こうと思いましたが、むしろ私が見たまま感じたままの方が良いと考え、写真を主に話を進めました。すべてが私の偏見と独断によるものですので失礼の段はご容ください。

（文中 敬称略。作品紹介は編集の都合により1人1点としました。全作品はホームページにあります）

石井光子

◎甲斐駒ヶ岳を望む＝春真っ盛りの風景です。青空に駒ヶ岳が残雪を抱いて聳え麓の村には桜が満開で、茅葺きの農家がひつそりとただずんでます。良い季節、良い時間を選んだ結果の作品です。

◎山中湖の早朝＝湖面全体に朝靄が広がっています。小舟が出て釣り人が一人竿を入れています。深呼吸すると肺の中

大 武 秋 笙

相変わらず外国の
鮮やかな作品です。

◎トルコ軍樂隊の
入場行進=広い林の
中を制服に着飾つた

軍樂隊の一行がやつ

て来ます。力強い行
進曲が響いてくるよ
うな気がします。

「トルコ軍樂隊の
演奏=トプカプ宮殿
での撮影ですが、中央に指揮者がデント
立つて指揮を執っています。莊厳な風景
です。気が付くと旅行者、見物人は一人
もいません。もしかすると大武秋笙先生
の歓迎セレモニーでしようか?



「トルコ軍樂隊の入場行進」 大武 秋笙



「二本の幹」 岩瀬 光



「山中湖の早朝」 石井 光子

まで洗われる様な清潔清純の情景です。
プロ同様に活躍されている方です。会
場に入った途端、思わず息を呑みました。
画面全般が活き活きと輝いているので
す。ポジからの伸ばしですが、流石フィ
ルムの特性をしつかり掴んでの撮影で
す。

の良い老木の間から広い湖面が見えま
す。よくよく見ますと左岸に釣り人が一
人竿を垂れています。やはり日本の湖と
どこか違う風景です。

◎一本の幹=画面一杯が紅葉の赤で
占められています。そこにやや太めの
幹が2本画面を押さえています。力強い
構図です、紅葉の赤と黒い幹が印象的で
す。全紙の印刷上がりに思わず見とれて

す。

◎釣り人と橋=中国での作品です。形

大 武 省 三

会津から芸術を発信している大武省
三先生です。兄の大武秋笙さんの海外写
真と競うように国内の花の撮影が主です。

◎釣り人と橋=中国での作品です。形

岩瀬 光

まで洗われる様な清潔清純の情景です。

プロ同様に活躍されている方です。会
場に入った途端、思わず息を呑みました。
画面全般が活き活きと輝いているので
す。ポジからの伸ばしですが、流石フィ
ルムの特性をしつかり掴んでの撮影で
す。

の良い老木の間から広い湖面が見えま
す。よくよく見ますと左岸に釣り人が一
人竿を垂れています。やはり日本の湖と
どこか違う風景です。

◎一本の幹=画面一杯が紅葉の赤で
占められています。そこにやや太めの
幹が2本画面を押さえています。力強い
構図です、紅葉の赤と黒い幹が印象的で
す。全紙の印刷上がりに思わず見とれて

◎コブシの咲く頃＝珍しくモノクロでの

大森佐一郎

敬意を表します。

◎雨上がりの薔薇＝今回も見事な赤い薔薇一輪と可憐な花が並んでいる「仲よし」の2点を出されました。好き好きがあるでしようが私は赤の薔薇を取りあげました。アップで画面一杯に正攻法通りに計算されて撮影されております。先生の花を愛する人柄が溢れています。



↑「雨上がりの一輪」 大武省三

陶品です。見上げた青空に
纏白のコブシの花が強烈な
印象を与えます。縦位置で

下方に作業中のトラクターが止まっています。農家の暮らしも取り入れた季節感
溢れる作品です。

◎根雪の来る頃＝北海道、当別の街角
です。暗い空で既に雪は充分積もっています。人も車も注意深く通らなければなりません。上方から狙いました。これからか
ら寒いそして陰気な季節が始まります。

この一見平凡な風景をものにした作者に
思いの服装で急いで通り過ぎます。先頭
雜している町の通りです。人びとは思



↑「コブシの咲く頃」
大森佐一郎



「木組みの家」 木村典子

◎木組みの家＝釘など使わない
木組みの建物です。段々に木材を
重ねて、1つの建
造物を仕上げまし
た。造った大工さ
んの苦労は大変だ
ったと思います
が、撮影者によつ
て非常に難しい被
写体です。まず木が重なっている所を正
面でなく重なり目の角の方向から狙つて
いますので構図的に無理な角度です。し
かも更に上の階がありますがこれも正方
形にならないので下の階とのバランスが
難しい作品です。難しい連続をうまく纏
めて写真にした腕前は大したものです。

◎ハーメルンの笛吹き男＝祭りの大混

木村典子

に祭りの着飾った男が夢中で笛を吹きながら歩いています。グリム童話の一齣です。今にも笛の音が聞こえてくる様です。

齊藤三朗



↑ 「二つの顔の丘」Ⅱ 齊藤三朗



↑ 「日本の花嫁」
佐々木 正

佐々木正

◎日本の花嫁Ⅱ明るくて可愛い花嫁で

す。写真
から見る
と撮影者

大きな真紅の団子状の塊を作り群生しています。山上の人たちと比較しても、如何に大きな群生か分かると思います。私はてっきり外国の植物と考えていましたが今日の新聞に写真が出ていて、何と茨城県のひたち海浜公園で真っ盛りとのこと。紅葉する草と言う題でした。箒草、とんぶりと聞いて納得しました。

じられます。

◎二つの顔の丘Ⅱコキアの群落と注がっています。私は知識不足で分かりませんが、写真で見ると特異の植物で

とは顔なじみのようです。最近はこのようない定型的に美しい日本の花嫁姿を見ることが少なくなりました。残念なことです。

◎二つの顔の丘ⅠⅡこれもスケールの大きな作品です。次の作品が真紅の画面ですがこちらはビロードたなびくネモファ群落とありますので場所、季節は判んでいます。全体に暗い寒々した様に感

ります。流れ落ちています。中国の景色とは違いますが北海道でもなく九州でもないがと悩んでいましたらご本人からクロアチアであると教わりました。景勝地として最近急に有名になつたクロアチアは川や滝が多く撮影場所の天国です。

白矢勝一

◎シャンソンに誘われてⅡ森の中のし

やれた建物の中からシャンソンが聞こえ来ます。夜に紛れて着飾った女性がシャンソンに誘われる様にやつて来ました、情緒のある写真です。ただ残念なことに小さい原板からの大伸ばしですので粒子が荒れてしましました。それでも夢は残りました。

◎隠れタバコⅡ近頃は世の中すべて禁

煙の時代になりました。喫茶店でもバーでも全面禁煙です。愛煙家はさぞ辛いことでしょう。一人の紳士がどうとう堪らず物陰でタバコに手を出しました。

◎お見合い写真——どうも私にはこの題が理解できませんが、写真そのものは見事な作品で白い水鳥がすました顔で水中の木の根っこに羽を休めています。端正

白矢泰三

↑「隠れ煙草」
白矢 勝一
◎明石の月||月夜の晩ライト
アップされた明石の橋が皓々と海上にそそり立っています。手前では緑の木が茂り草原が緩やかに揺れています。橋の騒音もここまで届かないようです。

白矢輝靖

し何處にも見えない「飛び込み禁止」の標識が気になります。

白矢智靖

◎街角で一人||フランスの田舎の街角です。古い石造りの建物が並んでいます。たまたま一人の女性が角を曲がり画面から消えようとしています。静かな街で、馬車でもやつて来る様な景色です。

◎甘い蜜||草原で花盛りです。どこにそれともイルカと掛けたしやれでしょう



↑「隠れ煙草」
白矢 勝一



→「お見合い写真」
白矢 泰三

な水鳥の影が水中に映っています。正に一幅の絵です。



「魚いるか」
白矢 智靖

◎飛び込み禁止
壁から若者が海に飛び込んだところです。とても良いタイミングです。写真としては満点です。しかし

か。

でも、これは「飛び込み禁止」の標識が気になります。

いるのかと探しましたら1羽の蝶々

が花に止まり蜜を吸っていました。のど

かな草原の春でした。

出来たかと思います。

◎盛夏に咲く＝真紅の花が画面一杯に

私は数百メートルしか歩けず、まして

山に登るなど

考えても見ま

せんので山

岳厚真是全く

批評できません。

ん。両者の作

品とも頑張つ

て撮りました

ねと言うだけ

で本当はこの

斜面の陰影が

欲しいところ

と思つても、登つて

いる方にとっては生命

の危険もあつて精一杯登つて

ているので何

も申せません。

◎暁の槍ヶ岳＝朝日が当たつて

いる山肌が奇麗です。

◎黎明の剣岳＝雪の山肌は本当に素晴らしい

数メートル左右に移動すれば手前のテ

レビアンテナやクレーンを避けることが

すればよいでしょう。

関口直男



「甘い蜜」 白矢輝靖



「盛夏に咲く」 関口直男

高橋俊一



「暁の槍ヶ岳」 高橋俊一

考えたかと思

います。

が花に止まり蜜を吸つていま

した。のど

かな草原の春でした。

出来たかと思います。

◎盛夏に咲く＝真紅の花が画面一杯に

私は数百メートルしか歩けず、まして

山に登るなど

考えても見ま

せんので山

岳厚真是全く

批評できません。

ん。両者の作

品とも頑張つ

て撮りました

ねと言うだけ

で本当はこの

斜面の陰影が

欲しいところ

と思つても、登つて

いる方にとっては生命

の危険もあつて精一杯登つて

ているので何

も申せません。

◎暁の槍ヶ岳＝朝日が当たつて

いる山肌が奇麗です。

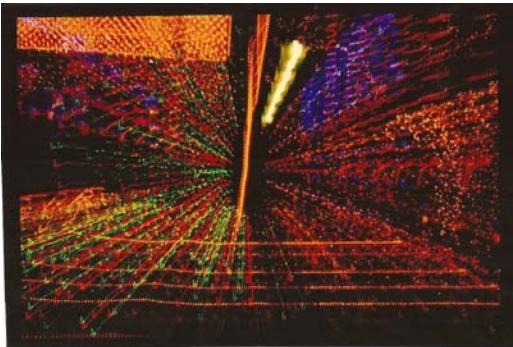
◎黎明の剣岳＝雪の山肌は本当に素晴らしい

数メートル左右に移動すれば手前のテ

レビアンテナやクレーンを避けることが

すればよいでしょう。

鷹 橋 靖 幸



「光の芸術」 鷹橋 靖幸



「記念写真」 竹腰 昌明



「秋の棚田」 逸見 和雄

◎秋の棚田――
転して豊かな秋、
錦秋の秋です。同

◎雨上がり＝面白い被写体です。雨上がりのしつとりとした感じがよく出でています。ただ余りにも素晴らしい作品ですので一言追加しますと、左の葉が大きすぎるので左下をもう少トリムすれば、さらによい作品になると 思います。

◎光の芸術＝奇麗な電飾です。真下から狙つたのが良かったと思います。一同この撮影をした場面は何処でしょうかと

言う質問が出ていました。写真芸術ですから何處でも良いとは思いますがイベントの夜 祭りの会場などなど、皆が感心しながら話しておりました。

◎タオルミーナの漁船＝イタリアでの撮影とのことですが一言、美しく塗つたヤクの写真を撮っている所を先生が撮られました。寒い高所なのでフサフサした毛皮が気に入つた様ですが、肉は硬く味付けの辛さに私は参りました。中国語ではこの辛さを麻（マー）と言います。

◎記念撮影＝中国の麗江で子供を乗せたヤクの写真を撮っている所を先生が撮られました。水面に美しい舟の影が揺らいでいます

（本誌夏季号の表紙でした）。

◎記念撮影＝中国の麗江で子供を乗せたヤクの写真を撮っている所を先生が撮られました。寒い高所なのでフサフサした毛皮が気に入つた様ですが、肉は硬く味付けの辛さに私は参りました。中国語ではこの辛さを麻（マー）と言います。

逸 見 和 雄

◎初夏の棚田――
山間の棚田の初夏です。画面一杯に朝靄がかかり、色彩は余りなく僅かに田圃の水面が霧の中に見えます。

涼しさを感じる写真です。

じ谷間の棚田でも季節により、これ程までに雰囲気が変わると感じました。

本村 美雄



「鐘を鳴らそう」 本村 美雄

◎鐘を鳴らそう＝撮影会で能登に行つたときの作品です。多くの仲間は何回も来たことのある軍艦島では写欲も湧かずカメラも出しませんでした。その中で本村先生は海岸に造られた記念の鐘に挑戦しました。大きい子、小さい子が

仲良く鐘を鳴らしていました。傑作です！ 頑張った甲斐がありました。

◎美白の干潟＝海岸は、ちょうど引き潮で美しい干潟が見えています。足下は

透明な海水が見え干潟は潮の流れにより蛇行しています。遠くの水平線はコバルトブルーに染まっています。この美しい風景の中に親子3人が潮の引くのを見つめています。



三上 忠英
◎田んぼアート
弁慶と牛若丸

お馴染みの風景です。今年は牛若丸と弁慶の絵柄です。奇麗に田植えして何ヶ

月も掛けて計算通り面倒を見て今実りの秋に姿を現しました。弁慶は大長刀を振り上げ牛若丸は道路の反対側に飛んでいます。

特に今年の絵柄は奇麗に出来上がりました。五条の大橋の文字さえきちんと読めます。勿論絵柄を制作された人びとの努力の結晶ですがこれを撮影された三上先生の根気と撮影の技術に感心致しました。

◎踊り子＝東北のお祭りです。可愛らしい男の子が踊りの衣装に身を正し誇らしげに一人前に踊っています。

村上 泰

花の写真に全勢力を注ぎ込んでいる先生です。残念ながら説明する私が花の名前など、全く分かりませんので申し訳ありません。

◎しやこばサボテン＝紫紅の花がまるで踊っているかのように画面の中を面白く展開しています。今にも写真の枠を超

えて、見る人に何か訴える様な精氣さえ感じられます。

◎真夏の木漏れ日＝緑の葉に囲まれて薄い上品な紫の大輪が作品の大部分を占めています。題から察しますと辺りは一面緑の木影でこの花だけ、まるやかな光が当たつていたのでしょう。花に熱中しておられる先生であるからこそ、この花の気持ちを感じてシャッターを切ったのかと思います。



「じゃこサボテン」 村上 泰



「二匹の大獅子」 矢崎 定造



「メコンの行水」 新井 隆彦

祭り専門の写真の大家です。

◎祭りのひと時＝踊りが今ちょうど一休みで全員が地面に腰を下ろして休憩中です。踊り手の前には踊りに使う細長の提灯がローソクに火が入るのを待っています。

◎二匹の大獅子＝これぞお祭りの矢崎先生の会心の作品です。道一杯、二匹の大獅子が飛び上がる寸前です。獅子は衣

容を見せておりまます、獅子の前には見物人も撮影者もいません。何時も感心されるのですが全国の祭りに飛び込んで、まるで先生のお出でになるのを待っていた様な一番良い席で撮影されるのは先生の熱意に圧倒されることでしょう。

装を一杯に広げ見事な頭を地面に付け偉容を見ておりまます、獅子の前には見物人も撮影者もいません。何時も感心されるのですが全国の祭りに飛び込んで、まるで先生のお出でになるのを待っていた様な一番良い席で撮影されるのは先生の熱意に圧倒されることでしょう。

◎メコンの崖上＝メコンリバーケルーは10～30メートル位低く船は殆ど崖壁に着きません。従つてお寺など観光するには崖の下に船を着け先ず船員がロープを持って崖を上がり縛り

新井 隆彦

ズ7日間。河

は10～30メ

ートル位低く

船は殆ど崖壁

に着きませ

ん。従つてお

寺など観光す

るには崖の下

に船を着け先

ず船員がロー

プを持って崖

付けてから我々船客の下船が始まります。

その間船の窓から見ていると崖の上には道があるらしく牛が数頭歩いていました。自転車が見えましたが、人はおりません。のんびりした風景です。これから乗客は木の根、草に掴まりながら崖を登らねばなりません。

◎メコンの行水Ⅱ草に掴まりロープに頼りやつと崖の上に上がると私たちのグ



懇親会風景



高度な技術評の交換も 懇親会

ループの為に色々な乗物が用意してありました。

車、今回はオートバイタクシーが待っていました。これは普通のオートバイの後ろの荷台に客がまたがると村の青年が更

に荷台に乗り客が落ちない様にして山を登りました。こうして山に到着すると山上にはお寺があり、部落では人びとがのんびりと暮らし子供を水浴させておりま

レストランで開きました。美術展と同様に出品者全員の作品計44点を、パソコンからスクリーンに投影、出席者それぞれが自作について説明しました。同時に仲間からハイレベルな技術論や撮影時の苦労話まで多岐にわたって発言があり、和やかに会食しながら楽しい時を過ぎました。

ただスクリーンが白板上でしたので、今ひとつ画像が鮮明でなかつたのは残念でした。



来年もJCIIで開くことが決まっています。ぜひ出品と同時に、懇親会にもご参加をお待ちしております。